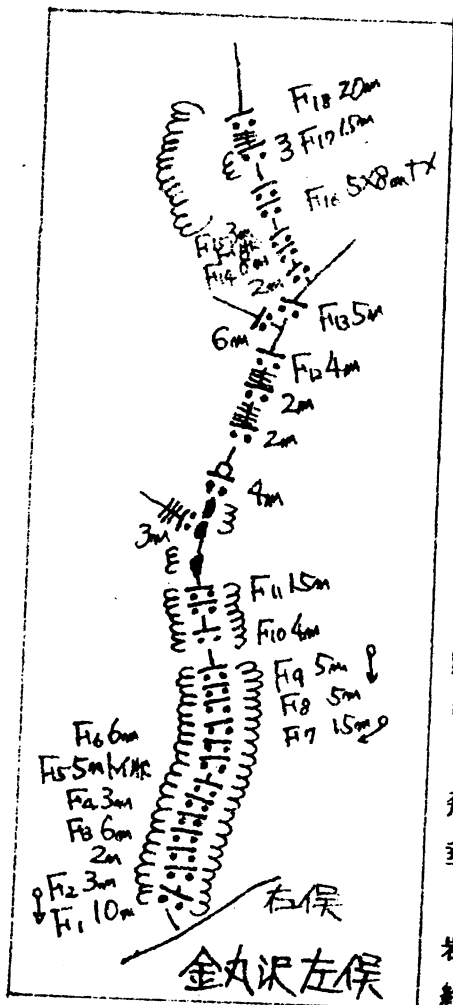


り微妙であり、藪沼を確保する。F₉は登れず、20分程捲いて、3m滝の上に出る。F₁₀は藪沼がなかなか取り付けず、確保して釜を渡らせ、斜瀑を登らせる。C.S.の流を越えると二俣に着く。右俣出合よりここまで約1kmしかないが、約3時間40分を費やす。遡行継続か、この地点より下山するか検討するが、この沢の下降は危険でまた時間を要するものと判断し、遡行継続を決定した。

この場所で20分休憩し、右沢に入る。次の二俣までわずか300mであったが、小滝が連続し、またF₁₂で直登できず捲いたりしたため、1時間30分を費やす。

14:50,最後の二俣。右俣は水量少なく、ナメ状の急傾斜であり、遡行終了となる。

[タイム] 金丸沢出合(7:40)→二俣(9:05)→左沢出合(13:00, 13:20)→遡行終了(14:50)



金丸沢左俣

1986年8月23日

押倉沢の遡行終了後、尾根上を吉坂山へ向けてヤブをこぎ、曲がりっぱなの所より下降を始める。沢はすぐに急な岩場や滝、ナメとなって下っている。プッシュを伝いながら下降。滑らないように注意しながらクライミングダウンを繰り返して本流へ。

本流を少し下ると、C.S.滝があって、右岸より支沢が入る。その先からはゴルジュ帯となり、険悪な滝が続く。F₉、F₈とF₇が続くところは、懸垂で一気に降りることができず、F₇の滝上にいったん降りてからハーケンを打ち、下へ。続くF₆は、右岸より捲く。この後も滝上より飛び込んで泳いで下ったり、ザイルを出して懸垂下降するなど、通過困難な滝が続く。

やがて左俣出合。ここよりしばらくは右岸に岩場をみて、ゴルジュ帯を下る。ゴルジュ帯が終わると、あとは河原状が霧来沢本流との出合

るが、比較的楽に越えてゆける。

やがてこの沢最大の40m二段滝。とても直登できたものではない。右岸から高捲いて、上に出る。

このあと、沢は小滝がほぼ一定間隔をおいて次々にかかるようになる。特にむずかしいものはなく、最初は楽しみながら越していたが、ついには記録どころか登るのさえおっくうになってしまった。

沢の水がなくなったあとひと登りすると、稜線。ここまで4時間30分。大きな滝は1個きりであったが、とにかく小さな滝、ひとつひとつをとれば印象に乏しい平凡な滝が次々にかかる、階段登りに等しい沢であった。(記・
[タイム] 遊行開始(7:50)→遊行終了(12:20)

金丸沢右俣

1986年8月23日

L

腐村になった三条部落に車を置き、5分程歩いて霧来沢に下降する。金丸沢出合は対岸。膝までの渡渉であった。

出合よりすぐF₁ 4m直瀑が現われ、左岸を捲いて越す。このあと悪場というほどのものはなく、河原歩きが続く。ただ、1mの滝手前の小さな釜を藁沼が突破できず、釜に落ちる。

二俣で10分の休憩後右俣に入るが、この後思いもかけぬ悪場が続く。F₂は直登できず、左岸を捲くが、ヤブが深く20分かかかる。小滝を越えるとゴルジュ帯である。中ほどにF₃がある。左岸を捲くことにし、藁沼を確保して小さく捲く。F₄はスタンス、ホールドも充分で、楽にクリアする。F₅は階段状であり、簡単に登る。この後支沢が合流するところで20分休み、行動食をとる。

F₆斜瀑を越え、左岸に小沢を確認すると、またゴルジュ帯である。F₇の釜を胸まで入り、突破する。F₈は一枚岩の右側を登るが、スタンスがかな

